

三中だより

令和4年11月7日(月)

大田区立大森第三中学校

校長 笛木 啓介

令和4年度第8号

大田区中央4-12-8

秋空の下、10月29日(土曜)に学芸発表会合唱コンクールを行いました。生徒たちは、これまでの練習の成果を発揮して、どのクラスも素晴らしい歌声を披露しました。また、当日は、保護者の方にも多数ご参観いただき、生徒たちの発表へはげましのお声をいただきました。とてもきれいな歌声が心地よかった、感動した、生徒の成長を見る機会がうれしいといったコメントもいただき、教職員一同感謝申し上げます。さて、今年度の合唱コンクールのスローガンは「残響光彩～三中輝く響きと彩りを～」でした。このスローガンそのままに、合唱コンクールの生徒たちの歌声が響き、三中全体を包みこみ、彩られる秋の一日となりました。この雰囲気は生徒たち、また参観していただいた保護者の皆様にも味わっていただけたことと思います。コンクールが終わったのちも、心の中には合唱コンクールの歌声が残っていることでしょう。

ところで、残響という言葉は、漢字から読み取ると、音の響きが残ったものと取れます。音は空気が振動して伝わるのですから、演奏が終わっても少し響きが残ります。例えたら、やまびこなどの反響もこの残響に近いのでしょうか。そして連想される言葉として、余韻があります。余韻は、事後に残る雰囲気などを表しています。例えてみると、お寺の鐘がゴーンと鳴って、カラスの鳴き声が聞こえて物悲しい秋の夕暮れ、そのときの心持といったところでしょう。心に残る景色や名残、味わいなどが余韻でしょう。そう考えると、残響が、物理的な仕組みで直接的な感覚と考えると、余韻は心の中に長く残り、受け取る人の心情的な部分に掛かるものと考えられます。

今回の合唱コンクールでは、どのクラスの発表もとても聞き応えがありました。合唱が終わるたびに、耳元にそのメロディーや生徒の音量が響いていました。これは、まさに残響というものでしょう。そして、聞き手はその圧倒的な表現に対して賛辞を惜しみません。「なんてすごいのだろう、素晴らしいのだろう」と感動を覚えます。そして、その舞台発表を見て後日に「素晴らしい合唱だった」「あの合唱が心の中でよみがえってくる」と振り返ります。これが余韻という部分です。人間がまずは五感で直接的に感じ取り、それを消化して心の中でまた感じ取るという連続した段階があることがわかります。残響が直接に心を揺さぶるもの、感じるものだとすると、余韻は後々から心をゆさぶるもので心を動かすものです。ちょうどこの2つを合わせると、感動です。こうした感動体験は、自らの成長に欠かせないものです。「なんてすてきなのだろう。」「つぎはこうなりたい。」その思いを原動力にして、努力を積み重ねていく、継続して取り組む、新たに挑戦するという姿勢が伸びていきます。今回の行事では、生徒たちの成長の可能性が、さまざまに見られて、将来の楽しみを予想させるものでした。生徒たちは、今回の合唱コンクールの体験をもとにして、それぞれに課題に対応し、より大きく成長してくれることと信じております。

さて、大森第三中学校では、今年度の二大行事である運動会と合唱コンクールを大きな成果を得て、無事に終了することができました。これも、地域・保護者のみなさまのご支援の賜物と感謝申し上げます。また、当日はPTAやおやじたちの集いの方々、学校運営協議会のみなさまには、受付や誘導などご協力いただきありがとうございました。これまでの学校行事の余韻に浸りつつ、先を見据えて進んでまいります。

スクールカウンセラー出勤予定日

藤田 啓子	11/1(火)、11/8(火)、11/15(火)、11/22(火)、11/29(火)
鳥海 真里	11/2(水)、11/9(水)、11/16(水)、11/30(水)
田中 典子	11/4(金)、11/11(金)、11/18(金)、11/25(金)、11/28(月)

※大森三中

相談室直通電話

(3773) 7831

11月の行事予定

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火
		後期生徒総会	都立ビーキングテスト(3) 於八潮高校				勤労感謝の日	専門委員会	英検集金 復習確認テスト(3)			期末考査 3日目 給食後下校	期末考査 2日目 給食なし	期末考査 1日目 給食なし		職員会議		土曜補習 入二小百周年記念行事	避難訓練	進路面談(3)終	区教研小中一貫教育の日 於入四小	区連合音楽会	安全指導		東京都教育の日		文化の日		後期時間割移行 始 進路面談(3) 始

学芸実行委員としての活動を終えて

1年

「絶対に優勝して、二冠したい！」その思いが私たちの練習に対する気持ちを変えました。みんなが真剣に先生の話聞いて、一回一回の練習にきちんと取り組んでいました。

私は学芸実行委員としてやりとげたい目標が二つありました。一つ目はみんなの中心となって練習を引っ張っていくという目標です。合唱の時にうるさくなったら声かけしたり、今日は何の練習をするかを考えたりしました。先生にどこができていなかったか、また改善するためにはどうすればいいかを聞いたりしました。そして聞いたアドバイスを練習風景と一緒にまなびポケットに投稿したりしました。

二つ目の目標は学芸実行委員としての仕事をやり遂げるという目標です。大新聞やカウントダウンカレンダーなどやるが多かったけれど、やり切ることができました。また当日の司会では、リモートで聞いているひとにも伝わるようにはっきり言うことを意識しました。特に結果発表は緊張したけれど、わかりやすく言えたのはよかったです。

私たち四組は合唱コンクールで最優秀賞を受賞し、二冠を達成することができました。みんなの中心として活動し、受賞することができて嬉しいです。

学芸実行委員は仕事も多くて大変だけれども、やりがいを感じるよい仕事だと思います。副委員長としての仕事はあまりできなかったけれど、楽しく仕事できたのでぜひ来年もやりたいと思いました。

合唱コンクールを振り返って

2年

皆さん合唱コンクールお疲れさまでした。日曜日と振替休日で疲れは十分に取れましたでしょうか。合唱コンクールでは見ている限りでは、全学年全クラスが勝利のため、クラスの仲間とともに血気盛んに練習そして本番に取り組んでいるようにみられました。

2年生の皆さん、合唱コンクールはどうだったでしょうか。楽しかった、悔しかったと思ってもらったのなら、実行委員としてとても嬉しく思います。私が見ている限りでも、どのクラスも実行委員とパートリーダーがクラスを引っ張り、それについていくことで一体化しているようにみられました。本番では、これまでの練習の成果がみられ、緊張の中であつたと思いますが、素晴らしい歌声を発表することができました。

実行委員として、合唱コンクールを見ていても、文句一つもない出来ばえだったと思います。

学芸発表会合唱コンクールは、10月29日(土)に実施しました。当日までの取り組みを通して、クラスの絆が深まりました。

そして、来年も学芸実行委員になったら、この現状を維持するだけではなく、新しい取り組みを取り入れ、よりよく、より楽しい合唱コンクールを目指していこうと思います。

最後に、合唱コンクールだけではなく運動会でも、誰にでも得意、不得意があると思います。そこで不得意だからといってやらないのではなく、不得意でも仲のいい人、クラスの仲間と一緒にやることで、たのしくできることを頭の片隅にでもいいのでおいてもらい、次の行事にも取り組んでもらいたいと思います。改めて合唱コンクール、本当にお疲れさまでした。

合唱コンクールを終えて

3年

今年の合唱コンクールは去年より、制限が少なくなったこともあり、新しい試みが増えました。

今回は、反響板が追加されたり、実行委員が二人になったりしたこともあり、歌声とそれぞれのクラスの熱意がとても伝わってきました。一年生は明るく元気な歌声、二年生は表現豊かなきれいな歌声、そして三年生は耳に残る一体感のある歌声でした。各学年、特徴のある素晴らしい合唱で、練習の成果がとても伝わりました。

二つ目は、三年生の学年リハーサルの際、一年生と二年生が見学に来たことです。三年ぶりに三学年全員が体育館に集まったこともあり、とても緊張しました。入退場が不安でしたが、実行委員が入退場の説明動画を作ったこともあり、比較的スムーズにでき安心しました。

三つ目に、吹奏楽部の生演奏を聴けたことです。感染症がはやる前までは、吹奏楽部の演奏があつたのですが、私は聴いたことがなかったので、三年になってようやく生演奏を聴くことができうれしかったです。私はその演奏を間近で聴き、音楽の人を動かす力に感動しました。

三年間実行委員をやってきて、流れは同じでも年々クオリティが上がっていて、毎年仕事をして楽しかったです。来年もさらに素晴らしい合唱になることを期待しています。

